

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	中国語第二		
英文授業科目名	Elementary Chinese II		
開講年度	2007年度	開講年次	1年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化基礎科目 I I		
開講学科・専攻	情報通信工学科 量子・物質工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	范 建明		
居室	東1 - 514		

公開E-Mail	授業関連Webページ

<b>【主題および達成目標】</b>
<p>中国語の基礎会話と基礎文法の習得を目標とします。</p> <p>また、この授業によって中国語実用技能検定の最低級の5級もしくは準4級に達することができます。</p>

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
<p><b>【前もって履修しておくべき科目】</b></p> <p>特になし。</p>

## 電気通信大学 平成19年度シラバス

### 【前もって履修しておくことが望ましい科目】

中国語第一

### 【教科書等】

身につく中国語コミュニケーション入門編 范建明著（生協で買ってください。）

### 【授業内容とその進め方】

この授業は、中国語第一で習った21個の子音と36個の母音及び4種類の声調を復習しながら、基礎会話と基礎文法及び漢字の勉強を学び続けます。具体的に言えば、中国語漢字と日本語漢字の異同や基礎会話の基本文型、主語、述語、目的語、限定語、修飾語、補語といった中国語の文の仕組みの勉強をします。また、中国語脳をつくるために、暗記暗誦のトレーニングをやります。毎回必ず指定した内容を予習復習してから授業に臨んでください。小テストと宿題は基本的毎回有ります。

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

評価方法：

期末試験および小テスト・宿題の結果を、次のように総合評価します。

成績評価 小テスト・宿題 50%

期末試験 50%

(b) 評価基準：

以下の到達レベルをもって最低達成基準とします。

試験成績が60点に達すること。

実用中国語技能検定5級以上合格者に対して有利に考慮します。

但し、成績は中国語第一と中国語第二を総合して2月に出します。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けませんが、火曜日の1300～15:00の間が望ましいです。

【学生へのメッセージ】

【学生へのメッセージ】

中国語を学ぶのは中国語脳をつくることです。中国語脳ができたときは中国語を自由に使える日です。問題は作り方です。私の方法はトレーニングです。中国語の発音も、基本語彙も、基礎文法も繰り返しの訓練によって中国語脳をすこしずつ作り上げます。ですから、授業は発音練習・朗読・暗記、普段は予習復習を重視します。

前期の勉強で21個の子音と36個の母音を上手に発音できましたか。できた方はこれから順調に進めますが、まだ上手にできてない方はこれから勝負です。頑張りましょう。

【その他】

無断欠席、遅刻しないように！